

### 6.1.3 土壤環境

#### (1) 地形・地質

##### ア 地形・地質の状況

###### (ア) 地形

概況調査地域の地形は、図 6.3.1-1 に示すとおり、仙台湾西縁にみられる海岸線に沿う沖積平野海岸に浜堤がみられ、平野の低地には、後背湿地が分布している。

また、これを囲むように自然堤防が分布し、その西側に扇状地及び崖錐や段丘平坦面が分布する形になっており、平地部地形に分類され、西から東に傾斜している。

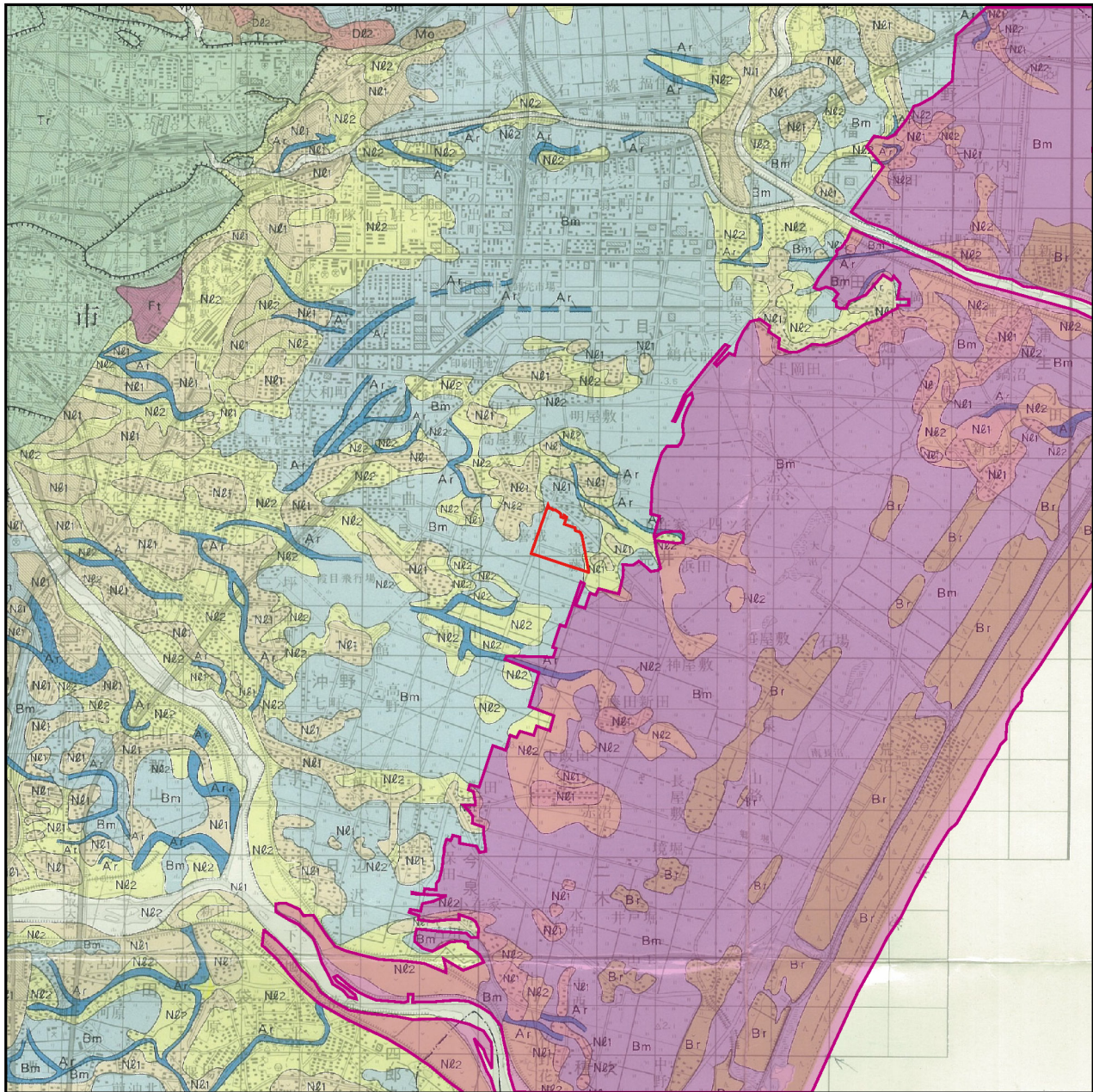
事業予定地は、後背湿地に位置し、標高は約 2m でほぼ平坦な地形となっている。

###### (イ) 地質

概況調査地域の表層地質の大部分は、図 6.3.1-2 に示すとおり、氾濫堆積物の砂・礫・泥で覆われているが、河川の現河床には礫・砂が、両岸には自然堤防の砂・礫が分布している。

また、汀線に沿っては現砂丘とこれに平行して並ぶ浜堤帯が分布し、ともに中粒砂と最近の海底砂である細粒砂とからなっている。

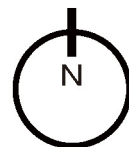
事業予定地は、砂及び粘土の分布地となっている。



出典:宮城県地震地盤図 昭和57年3月 宮城県総務部危機対策課  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ (2011.4.9)」を基に作成

凡 例

- 事業予定地
- 浸水区域

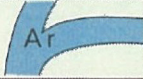

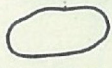


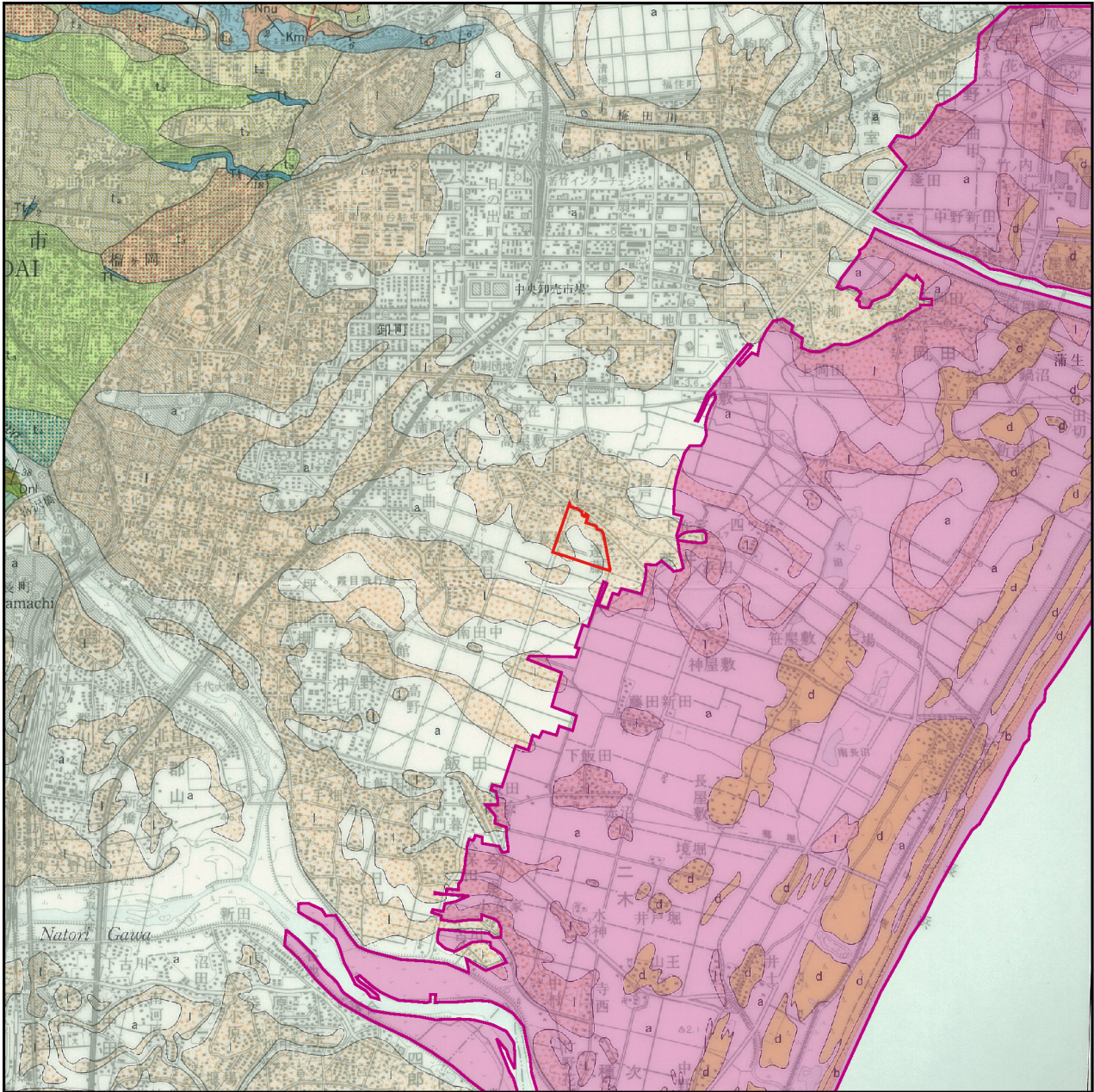
縮尺 1/60,000



図 6.1.3-1 地形分類図

## 地形分類図凡例

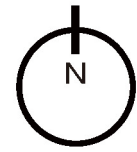
地形区分		記号	
人工地形	埋立地 (海浜部・湖沼部)	Rl	
	平地部造成地 (切土・盛土)⑨	Dl1	
	山地部造成地 (切土・盛土)⑨	Dl2	
平地部地形	浜堤	Br	
	自然堤防	発達部	Nl1
		未発達部	Nl2
	後背湿地	Bm	
	旧河道	Ar 	
	扇状地及び崖錐	Ft	
	谷底平地	Vp	
	段丘平坦面	Tr	
段丘崖			
山地部地形	地すべり性地形分布域		
	火山地形	Vt	
	山地	Mo	



出典：「仙台地域の地質」地質調査所  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ  
 (2011.4.9)」を基に作成

凡 例

- 事業予定地
- 浸水区域



縮尺 1/60,000



図 6.1.3-2 表層地質図

# 表層地質図凡例

第四紀 Quaternary	完新世 Holocene	埋谷土 Earthwork materials		r	土 砂 Sand and earth (prepared for constructions)		
		地すべり堆積物 Landslide deposits		s	土塊・岩塊・粘土 Lump of earth or rock, clay		
		沖積層 Alluvium	後背湿地堆積物・谷床平野堆積物 Back marsh deposits and valley plain deposits		a	砂及び粘土(部分的に多賀城火山灰を挟む) Sand and clay (partially intercalating the Tagajō Volcanic Ash)	* 沖積層 Alluvium
			自然堤防堆積物 Natural levee deposits		l	砂 Sand	
			砂浜堆積物 Sand beach deposits		b	砂 Sand	
			浜堤堆積物 Sand dune deposits		d	砂 Sand	
	更新世 Pleistocene	河岸段丘堆積物 River terrace deposits	仙台下町段丘堆積物及び相当層 Sendai-shimomachi Terrace Deposits and the correlatives		t <sub>4</sub>	礫層・砂層及び粘土層 Gravels, sands and clays	* 河岸段丘堆積物 River terrace deposits
			仙台中町段丘堆積物及び相当層 Sendai-nakamachi Terrace Deposits and the correlatives		t <sub>3</sub>	礫層・砂層及び粘土層(一部永野火山灰に覆われる) Gravels, sands and clays (partially covered with the Nagano Volcanic Ash)	
			仙台上町段丘堆積物及び相当層 Sendai-kamimachi Terrace Deposits and the correlatives		t <sub>2</sub>	礫層・砂層及び粘土層 Gravels, sands and clays	
			台の原段丘堆積物及び相当層 Dainohara Terrace Deposits and the correlatives		t <sub>1</sub>	礫層・砂層及び粘土層(一部愛島火山灰に覆われる) Gravels, sands and clays (partially covered with the Medeshima Volcanic Ash)	
		青葉山層 Aobayama Formation	越路火山灰 Koeji Volcanic Ash		Ab	粘土質火山灰及び軽石質細粒火山灰 Clayey volcanic ash and pumiceous fine-grained volcanic ash	
			二ッ沢礫層 Futatsuzawa Gravels			礫層・砂層及び粘土層(泥炭を挟む) Gravels, sands and clays (intercalating peat)	
	鮮新世 Pliocene	仙台層群 Sendai Group	留ヶ谷層 Tomegaya Formation		Tm	砂岩及び礫岩 Sandstone and conglomerate	
			大年寺層 Dainenji Formation	シルト岩砂岩互層を主とする岩相 Alternating facies of siltstone and sandstone		Dnu	シルト岩・砂岩及び亜炭 Siltstone, sandstone and lignite
砂岩を主とする岩相 Sandstone facies					Dnl	砂岩・礫岩及びシルト岩 Sandstone, conglomerate and siltstone	
向山層 Mukaiyama Formation			広瀬川凝灰岩部層 Hirosegawa Tuff Member		Mkt	軽石凝灰岩及び細粒凝灰岩 Pumice tuff and fine-grained tuff	* 向山層 Mukaiyama Formation
			主部 Main part		Mk	砂岩・シルト岩・亜炭・凝灰岩及び礫岩 Sandstone, siltstone, lignite, tuff and conglomerate	
竜の口層 Tatsunokuchi Formation				Tt	シルト岩・砂質シルト岩・凝灰岩及び砂岩 Siltstone, sandy siltstone, tuff and sandstone		
亀岡層 Kameoka Formation				Km	砂岩・凝灰岩・シルト岩・亜炭及び礫岩又は礫混じり砂岩 Sandstone, tuff, siltstone, lignite and conglomerate or pebbly sandstone		

新第三紀 Neogene	秋保層群 Akiu Group	貫入岩 Intrusive rocks	An	安山岩 Andesite			
		三滝層 Mitaki Formation	Mt	安山岩質—玄武岩質溶岩・火山角礫岩及び凝灰角礫岩 Andesitic to basaltic lava, volcanic breccia and tuff breccia			
		白沢層 Shirasawa Formation	Sr	軽石凝灰岩・細粒凝灰岩及び凝灰質シルト岩 Pumice tuff, fine-grained tuff and tuffaceous siltstone			
		梨野層 Nashino Formation	Ns	異地性ブロックを含む軽石凝灰岩・砂質凝灰岩及び砂岩 Pumice tuff, sandy tuff and sandstone (containing allochthonous blocks)			
		湯元層 Yumoto Formation	主部 Main part	Ym	軽石凝灰岩(堅固) Pumice tuff (solid)		
			最下部 Lowermost part	Ymt	軽石凝灰岩(やや軟質) Pumice tuff (somewhat soft)		
		志田層群 Shida Group	北七田層 Nanakita Formation	上部 Upper part	Nnu	砂岩(凝灰岩薄層を挟む) Sandstone (intercalating thin tuff layers)	
				下部 Lower part	Nnl	砂岩・軽石凝灰岩及び礫岩 Sandstone, pumice tuff and conglomerate	
			青麻層 Aoso Formation	Ao	砂岩・シルト岩及び凝灰岩 Sandstone, siltstone and tuff		
			番ヶ森山層 Bangamoriyama Formation	Bn	軽石質砂岩及び礫岩 Pumiceous sandstone and conglomerate		
	中新世 Miocene	入菅谷層 Irisugaya Formation	lr	凝灰質砂岩及び凝灰質シルト岩(凝灰岩薄層を挟む) Tuffaceous sandstone and tuffaceous siltstone (intercalating thin tuff layers)			
		綱木層 Tsunaki Formation	Tn	軽石凝灰岩・火山礫凝灰岩・砂岩・礫岩及び凝灰角礫岩 Pumice tuff, lapilli tuff, sandstone, conglomerate and tuff breccia			
		旗立層 Hatatate Formation	Ht	砂岩及びシルト岩(凝灰岩薄層を挟む) Sandstone and siltstone (intercalating thin tuff layers)			
		茂庭層 Moniwa Formation	Mn	礫岩・礫混じり砂岩及び砂岩 Conglomerate, pebbly sandstone and sandstone			
		名取層群 Natori Group	高館層 Takadate Formation	火山砕屑岩類 Pyroclastic rocks	Tk	火山角礫岩・凝灰角礫岩及び軽石凝灰岩 Volcanic breccia, tuff breccia and pumice tuff	* 高館層 Takadate Formation
				安山岩・玄武岩 Andesite and basalt	Tkb	安山岩溶岩及び玄武岩溶岩 Andesite lava and basalt lava	
			流紋岩 Rhyolite	Tkr	流紋岩溶岩 Rhyolite lava		
			槻木層 Tsuikinoki Formation	上部 Upper part	Ts	砂岩・礫岩・火山礫凝灰岩及びシルト岩 Sandstone, conglomerate, lapilli tuff and siltstone	
		中部 Middle part		Tst	軽石凝灰岩及び細粒凝灰岩 Pumice tuff and fine-grained tuff		
		松島灣層群 Matsushimawan Group	東宮浜層 Toguhama Formation	Tg	デイサイト質角礫岩及び凝灰質砂岩 Dacitic breccia and tuffaceous sandstone		
佐浦町層 Sauramachi Formation	Su		火山円礫岩・凝灰岩及び凝灰質砂岩 Volcanic conglomerate, tuff and tuffaceous sandstone				
塩釜層 Shiogama Formation	上部 Upper part		Sht	軽石凝灰岩 Pumice tuff			
	主部 Main part	Sh	火山角礫岩及び凝灰角礫岩 Volcanic breccia and tuff breccia				
中期三疊紀 Middle Triassic	利府層 Rifu Formation	Rf	頁岩・砂質頁岩及び砂岩 Shale, sandy shale and sandstone				

## イ 注目すべき地形・地質の状況

概況調査地域における注目すべき地形・地質の状況は、表 6.1.3-1 及び図 6.1.3-3 に示すとおりである。

事業予定地には、注目すべき地形・地質は存在しない。

表 6.1.3-1 注目すべき地形・地質

No	件名	選定理由	保全の状況
1	大沼、赤沼、南長沼	仙台平野の原景観を残す湖	—
2	井土浦・名取川河口・七北田川河口など	潟湖・河口干潟・砂浜海岸の典型例、かつ動植物の重要な生育地	仙台湾海浜県自然環境保全地域

※上表の注目すべき地形・地質は、東北地方太平洋沖地震による浸水の影響がみられる

出典：平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書 平成 16 年 2 月 仙台市

## ウ 災害履歴

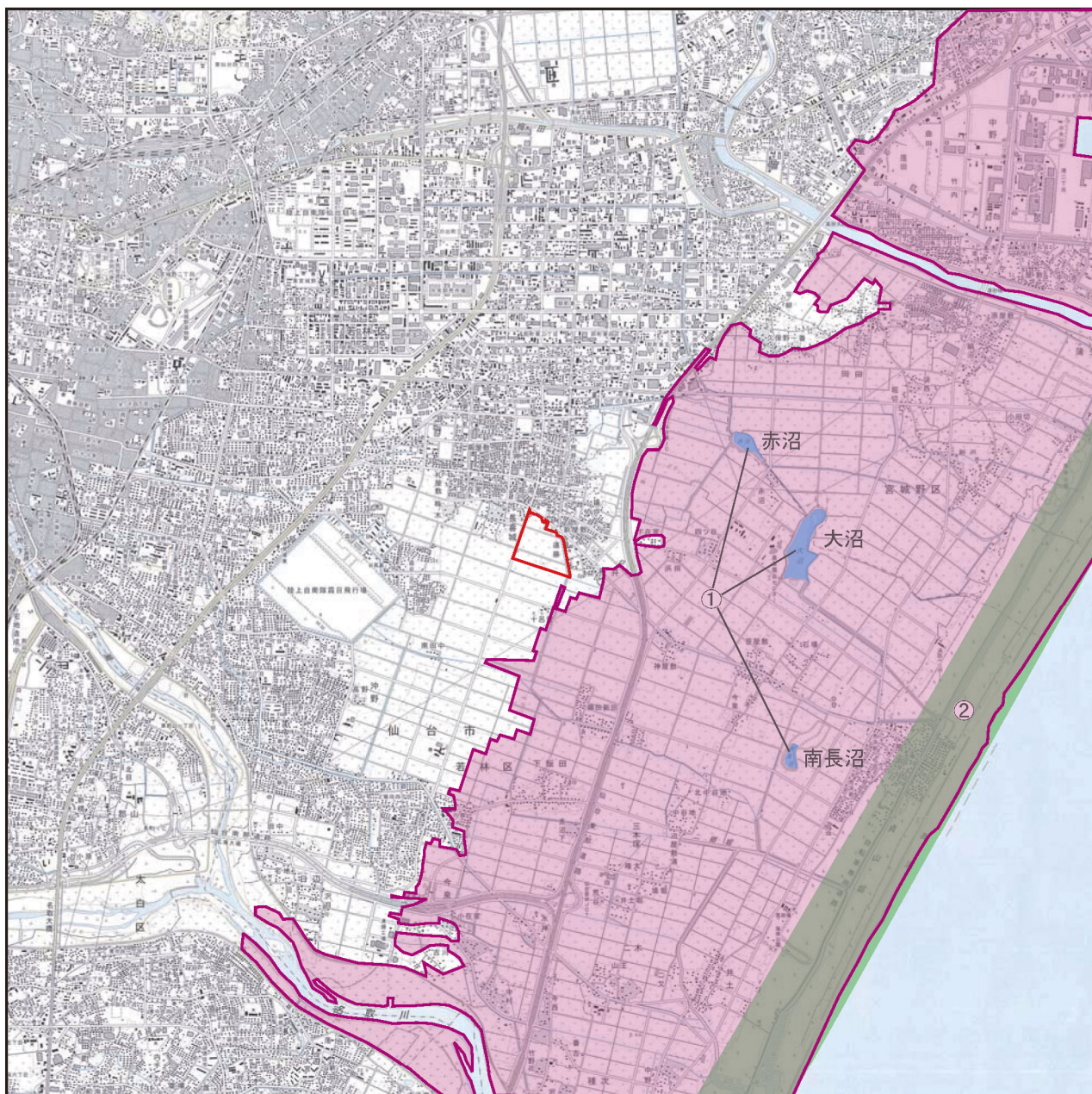
概況調査地域における近年の災害としては、平成 6 年 9 月の大雨による浸水被害があり、仙台東部道路東側の一部、仙台東部道路の西側で霞目飛行場の東側一帯の広い地域が浸水した。

事業予定地における近年の災害としては、昭和 53 年の宮城県沖地震による地盤の液状化、昭和 61 年の台風 10 号、平成 6 年の大雨による浸水被害を受けている。また、平成 23 年 3 月 11 日には、東北地方太平洋沖地震が発生し、東部沿岸地域を中心に甚大な被害をこうむっている。事業予定地及び周辺の状況については、1.4 東日本大震災の影響に示すとおりである。(P1-4~1-15)

## エ 大規模な造成を要する斜面地等（30 度以上の急斜面、谷密度が高い場所）

概況調査地域における傾斜区分は、図 6.1.3-4 に示すとおり、西側の一部を除き、概ね 3 度未満であり、30 度以上の急斜面は存在しない。

事業予定地の傾斜区分も 3 度未満である。



出典：平成 15 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書（平成 16 年 2 月 仙台市）  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ（2011. 4. 9）」を基に作成  
 ※大沼等の注目すべき地形・地質は、東北地方太平洋沖地震による浸水の影響がみられる

凡 例

- 事業予定地
- ① 大沼，赤沼，南長沼
- ② 井土浦・名取川河口・七北田川河口など
- 浸水区域

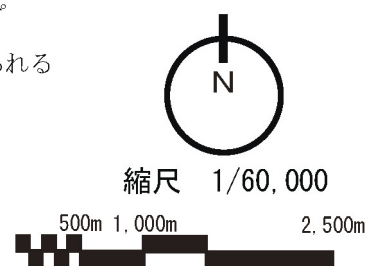
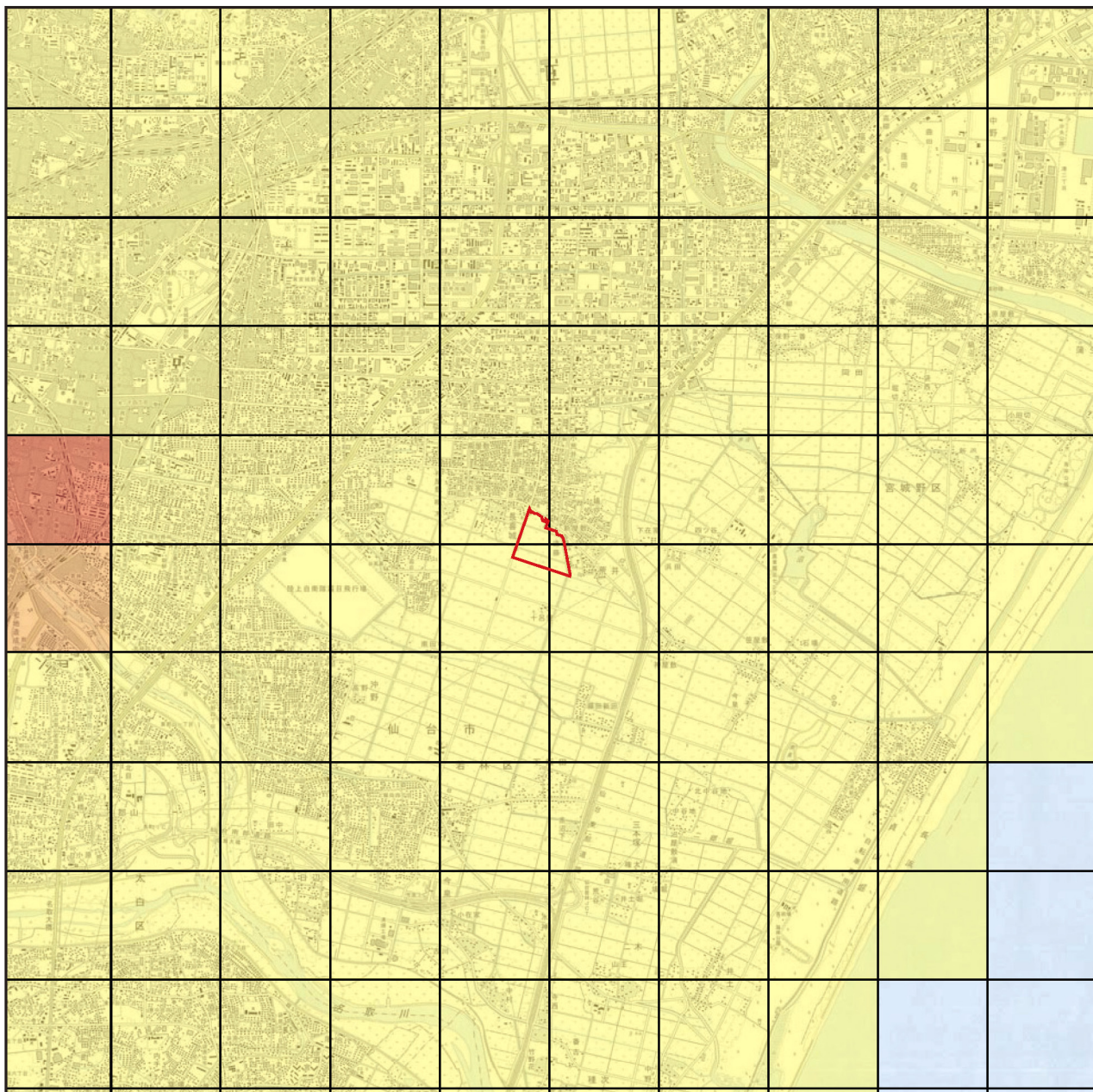





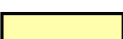
図 6.1.3-3 注目すべき地形・地質位置図

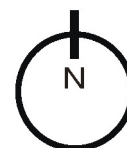




出典：仙台地域環境利用ガイド（地図集）昭和62年3月 宮城県

凡 例

-  事業予定地
-  傾斜量 8度以上 15度未満
-  傾斜量 3度以上 8度未満
-  傾斜量 3度未満



縮尺 1/60,000



図 6.1.3-4 傾斜量区分図

## オ 災害の危険箇所

概況調査地域には、急傾斜地崩壊危険箇所、地すべり防止区域、砂防指定地、崩壊危険箇所、地すべり危険箇所、土石流危険箇所、崩壊地、地すべり地形は存在しないが、北西部（宮城野区宮城野原～東仙台四丁目）に活断層がみられる。活断層の位置は、図 6.1.3-5 に示すとおりである。

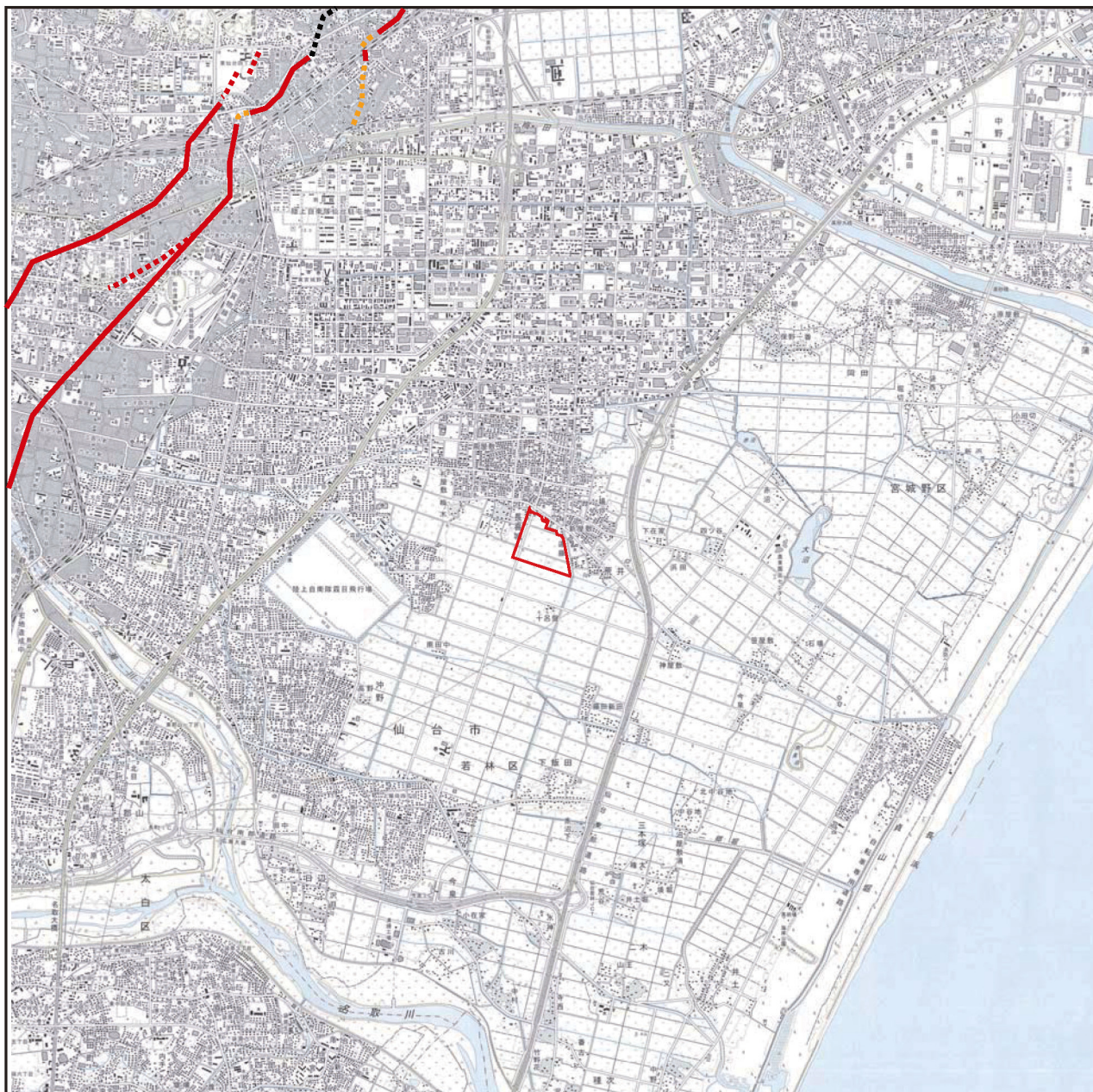
事業予定地は、沖積低地の後背湿地が分布していることから、軟弱地盤層が広く分布していると考えられる。

なお、防災上の注目域は、表 6.1.3-2 のように示されている。

表 6.1.3-2 防災上の注目域






項 目	分布及び特性
急傾斜地崩壊危険区域 (急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律)	崩壊のおそれのある急傾斜地（傾斜度 30° 以上の土地）であって居住者等に危害が生ずるおそれのあるもの及び隣接地で崩壊を助長・誘発するおそれのあるものを指定。 工作物等の設置、切土・盛土、木竹の伐採、土石の採取、水の浸透水を助長する行為等は許可を要する。
地すべり防止区域 (地すべり等防止法)	地すべりしている区域又は地すべりするおそれの極めて大きい区域及び隣接地で地すべりを助長・誘発するおそれのあるものを指定。 工作物等の設置、切土・盛土、木竹の伐採、土石の採取、地表水の浸透水を助長する行為等は許可を要する。
砂防指定地 (砂防法)	土砂等の生産、流送若しくは堆積により溪流、河川、若しくはその流域に著しい被害を及ぼす区域を指定。 工作物の設置、切土・盛土、木竹等の伐採、土石の採取等は禁止又は許可を要する。
崩壊危険箇所	崩壊により被害を生じる可能性のある箇所。
地すべり危険箇所	地すべりにより被害を生じる可能性のある箇所。
土石流危険箇所	土石流により被害を生じる可能性のある箇所。
崩壊地	かつて崩壊したところ。これが密度高く分布するところは、崩壊を生じやすい可能性がある。
活断層 (変位地形が明瞭な活断層) (変位地形が不明瞭な活断層)	活断層とは、最近の地質時代（第四紀あるいは第四紀後期）に繰り返し活動し、かつ将来も活動する可能性が大きいと考えられる断層をいう。活断層はいわゆる内陸直下型地震の震源となるという点で、近年注目をあびている。 仙台市内には、長町一利府線、大年寺山断層、鹿落坂断層、愛子断層、坪沼断層、作並一屋敷平断層の活断層が存在する。これらの周囲 200～300m 程度の範囲では、これらの活断層を震源とする地震が発生した場合、被害が特に大きくなる可能性がある。
軟弱層の厚さ	軟弱層とは、泥炭や有機質土、未固結の粘土・シルトから成る。含水比の高い圧縮性のあに富む地耐力の小さい土層をいう。沖積低地の主に後背湿地に分布する。 軟弱層の暑さは、地震の揺れの強さと相関があることが宮城県沖地震の被害状況等から知られている。また、一般に軟弱層は、荷重や水抜き等により収縮現象が起こりやすく、地盤沈下を引き起こすため、土地利用にあたって十分な対策が必要である。

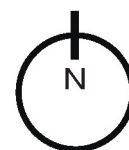
出典：平成 6 年度自然環境基礎調査報告書 平成 7 年 3 月 仙台市



出典：都市圏活断層図（国土地理院ホームページ）

凡 例

-  事業予定地
-  活断層
-  活断層（位置やや不明確）
-  活断層（伏在部）
-  推定活断層（地表）（位置不明確）



縮尺 1/60,000



図 6.1.3-5 活断層位置図

## カ 災害等により影響を受ける施設等の状況

事業予定地周辺には、災害の危険箇所の指定はないが、過去に被害のあった浸水被害や地震による地盤の液状化が想定され、これらの災害等により影響を受ける施設は事業予定地及びその周辺の農地、住宅、道路等が考えられる。

## キ 地形・地質保全上の留意点

事業予定地は、ほぼ平坦な地形で、災害の危険箇所も存在しないが、表層地質は沖積層の砂及び粘土の分布地となっており、軟弱地盤層の分布も想定される。

このため、地質調査により地層構成や地盤の強度を把握するなど、地形改変の範囲及び施工方法、構造物の配置及び規模等について留意する。

## (2) 地盤沈下

### ア 地盤沈下の状況

概況調査地域の地盤沈下の状況は、図 6.1.3-6 の昭和 49 年から平成 20 年までの累積変動量に示すとおり、北西部を除き、全域にわたり地盤沈下がみられる。

事業予定地は、昭和 49 年から平成 20 年までの間に、6 cm から 10 cm の地盤沈下があった地域に属する。

また、概況調査地域では、宮城県公害防止条例及び工業用水法において地下水の揚水が制限されており、事業予定地もこれに属している。地下水採取規制地域の位置は、図 6.1.3-6 に示すとおりである。

### イ 地盤沈下の原因

地盤沈下の主な原因としては、軟弱な粘土層が分布している地域等において、大量の地下水を取水する場合や建物、工作物の建設等に伴う地盤の圧密などが挙げられる。

事業予定地周辺における地盤沈下については、日の出町や扇町等の工場が立ち並ぶ場所での工業用水の取水が大きな地盤沈下を招いたため、現在では前述のとおり、地下水の揚水が制限されている。

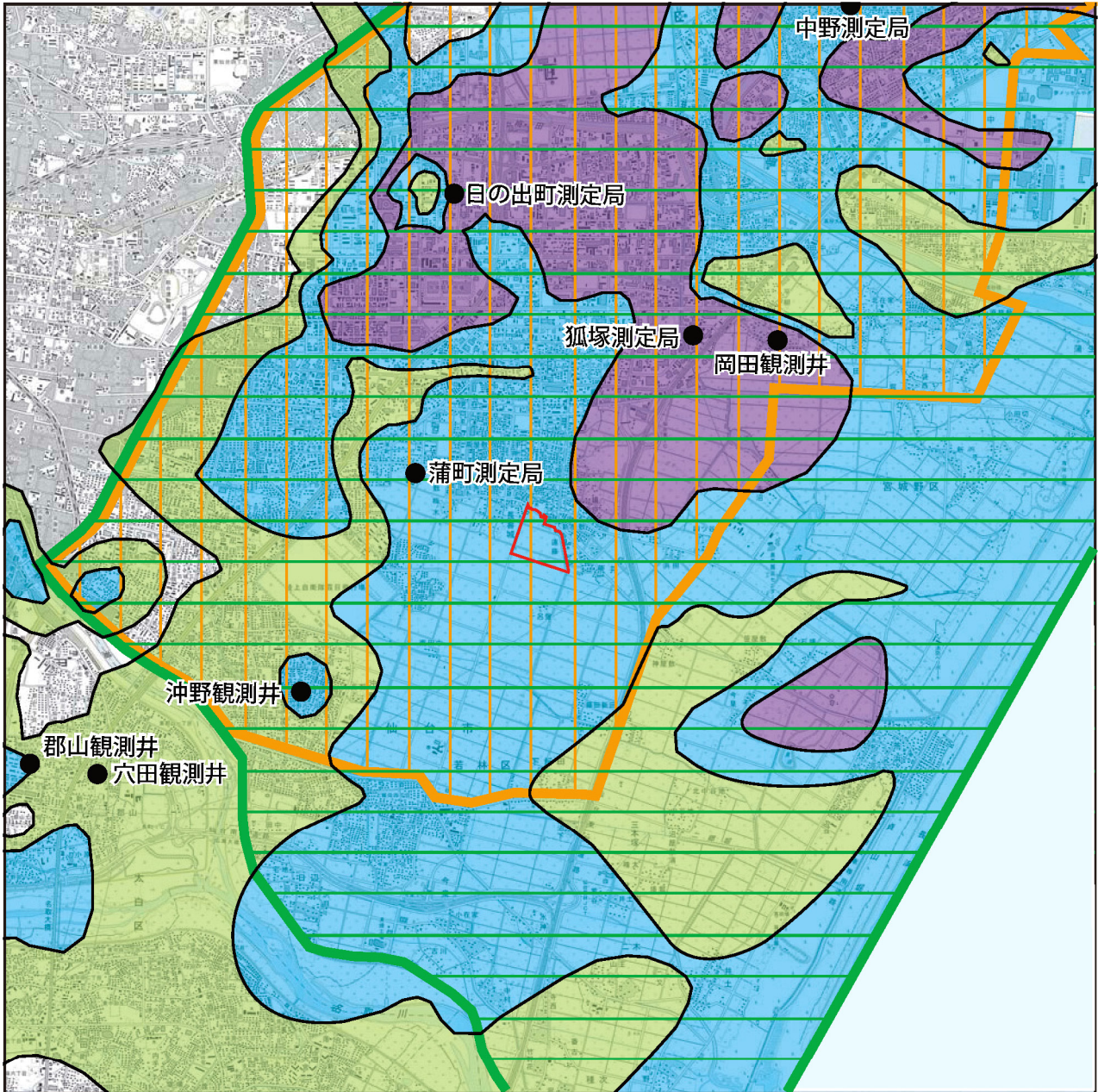
### ウ 影響を受ける施設等の状況等

事業予定地は、軟弱な粘土層の分布が想定されるため、土地の形状の変更等により、地盤の圧密沈下による影響が考えられる。

この場合、影響を受ける施設等は、事業予定地に隣接する農地、住宅、道路等が考えられる。

### エ 地盤沈下防止上の留意点

事業予定地は、軟弱な粘土層の分布が想定されるため、掘削や盛土工事を行う箇所では、地盤の変形による沈下や地下水位の変化による沈下の影響が生ずることのないよう、必要に応じた対策を行うなど地盤沈下の防止に留意する。



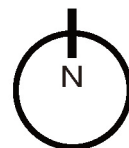
出典：仙台市の環境（平成 20 年度実績報告書）仙台市環境局  
 地下水採取規制地域の指定（平成 7 年 10 月 1 日）宮城県告示 1045 号

凡 例

- 事業予定地
- 県公害防止条例地下水採取規制地域
- 工業用水法地下水揚水規制指定地域

※昭和 49 年～平成 20 年累積変動量

- 沈下量 4～6 cm
- 沈下量 6～10 cm
- 沈下量 10 cm 以上



縮尺 1/60,000



図 6.1.3-6 地下水揚水規制及び地盤沈下量図

(3) 土壌汚染

ア 土壌汚染の状況

概況調査地域における土壌のダイオキシン類の測定結果は、表 6.1.3-3 に示すとおりである。概況調査地域では平成 18 年度～平成 22 年度にかけて計 13 地点で調査を実施されており、測定結果は、すべての地点で環境基準を満足していた。

また、概況調査地域では、土壌汚染に係る苦情の発生はない。

表 6.1.3-3 土壌汚染測定結果（ダイオキシン類）（平成 18 年度～平成 22 年度）

No.	調査年月日	地点所在地	調査地点名称	測定結果 (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
1	平成 18 年 12 月 7 日、8 日	宮城野区東九番丁	榴岡小学校	0.054	1,000
2		宮城野田子	田子中学校	0.040	
3		若林区沖野	沖野東小学校	0.032	
4		太白区袋原	原前南公園	1.5	
5		太白区四郎丸	渡道北公園	0.065	
6		太白区中田町	後河原 2 号公園	1.7	
7	平成 19 年 10 月 24 日、25 日	若林区古城	古城小学校	0.095	
8	平成 20 年 11 月 18 日、19 日	宮城野区蒲生	港南東公園	0.44	
9		太白区郡山	穴田東公園	0.85	
10	平成 21 年 10 月 27 日、28 日	太白区郡山	郡山八丁目南公園	0.90	
11		太白区飯田	広瀬川飯田公園	0.021	
12	平成 22 年 12 月 9 日	宮城野区栄	中野栄小学校	0.49	
13		若林区荒井	七郷小学校	0.015	

出典：公害関係資料集 平成 19 年度～平成 23 年度（平成 18～22 年度測定結果）仙台市環境局

イ 発生源の状況

重点調査範囲において、土壌汚染対策法で規定する有害物質使用施設保有事業場は、表 6.1.3-4 のとおり 17 件あるが、事業予定地に最も近い施設でも事業予定地より約 1.2km 離れている。また、図 6.1.3-7 に示すとおり、事業予定地と同じ名取川流域に位置する有害物質使用特定施設は 5 つ存在する。

事業予定地には、有害物質使用特定施設保有事業場の立地は、確認されていない。

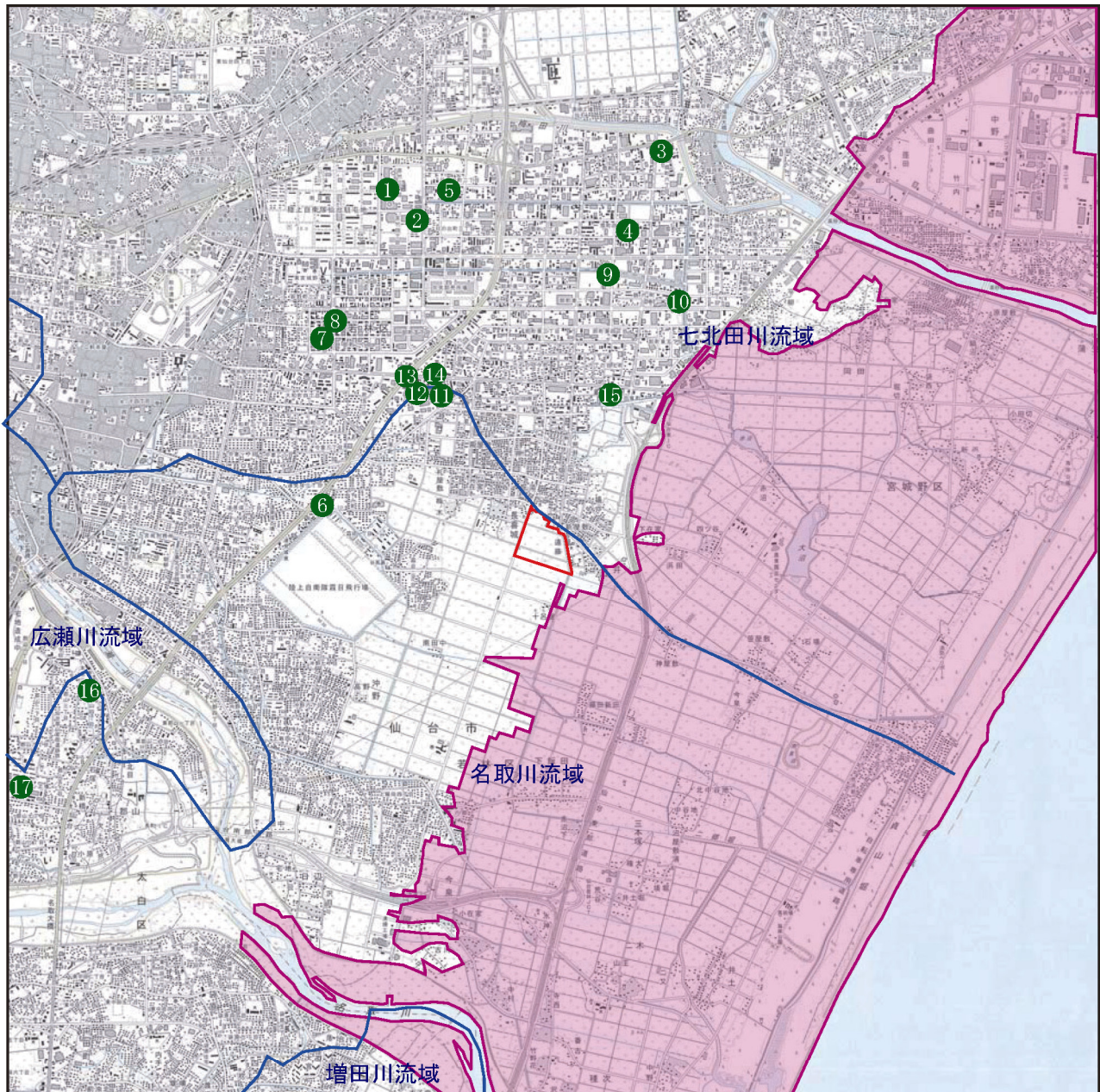
表 6.1.3-4 土壌汚染対策法による有害物質使用特定施設保有事業場

事業場名称	事業場の位置	河川の流域
株式会社D N P 東北	宮城野区苦竹三丁目	七北田川流域
独立行政法人産業技術総合研究所東北センター	宮城野区苦竹四丁目	七北田川流域
有限会社シーシーサポート	宮城野区扇町六丁目	七北田川流域
本田精機株式会社	宮城野区扇町四丁目	七北田川流域
社団法人宮城県生活環境事業協会浄化槽法定検査センター	宮城野区日の出町二丁目	七北田川流域
株式会社藤野硝子	若林区かすみ町	名取川流域
株式会社日本環境衛生研究所	若林区卸町一丁目	七北田川流域
株式会社サトーサービス	若林区卸町一丁目	七北田川流域
仙台市衛生研究所	若林区卸町東二丁目	七北田川流域
株式会社オートランドリータカノ	若林区鶴代町	七北田川流域
白山工芸塗装有限会社	若林区六丁目の目元町	名取川流域
上坂メッキ工業株式会社 本社工場	若林区六丁目の目元町	名取川流域
上坂メッキ工業株式会社 第二工場	若林区六丁目の目元町	七北田川流域
株式会社イネツ仙台	若林区六丁目の目元町	七北田川流域
中光印刷株式会社 仙台支局	若林区六丁目の目東町	七北田川流域
白木屋クリーニング	太白区郡山三丁目	名取川流域
N E C トーキョー株式会社仙台事業所	太白区郡山六丁目	名取川流域

※上表特定施設保有事業場は、東北地方太平洋沖地震による浸水の影響はみられない

出典：仙台市への公文書開示請求結果（平成 23 年 3 月 31 日現在）

注）上記事業場は水質汚濁防止法及び下水道法の届出内容から把握しているものである。



出典：「仙台市水環境プラン」平成11年3月 仙台市  
 ※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部津波被災マップ  
 (2011.4.9)」を基に作成  
 ※東北地方太平洋沖地震による浸水の影響があった特定施設保有事業場はみられない

凡 例

事業予定地  浸水区域

- ① 株式会社DNP東北
- ② 独立行政法人産業技術総合研究所東北センター
- ③ 有限会社シーシーシーサポート
- ④ 本田精機株式会社
- ⑤ 社団法人宮城県生活環境事業協会浄化槽法定検査センター
- ⑥ 株式会社藤野硝子
- ⑦ 株式会社日本環境衛生研究所
- ⑧ 株式会社サトーサービス
- ⑨ 仙台市衛生研究所
- ⑩ 株式会社オートランドリータカノ
- ⑪ 白山工芸塗装有限公司
- ⑫ 上坂メッキ工業株式会社 本社工場
- ⑬ 上坂メッキ工業株式会社 第二工場
- ⑭ 株式会社イネツ仙台
- ⑮ 中光印刷株式会社 仙台支局
- ⑯ 白木屋クリーニング
- ⑰ NECトーキン株式会社仙台事業所

図 6.1.3-7 土壤汚染対策法による有害物質使用特定施設保有事業場図

## ウ 土地利用の履歴

概況調査地域において、過去の土地利用履歴をみると、1964年（昭和39年）当時は、名取川左岸の現国道4号バイパス付近は、霞目飛行場や既存集落程度の土地利用が行われている他は、ほとんどが農地となっている（図6.1.3-8参照）。

これらの地域は昭和40年代後半より土地区画整理事業や開発行為により住宅地開発が進展している。

事業予定地は、現在事業所が1件、住宅が2件とドックランの施設が存在するが、従前の土地利用は水田となっている。

また、盛土材の搬入元として想定している利府町森郷字内ノ目北地内の土取場は、従前は林地となっている。

## エ 影響を受ける施設等の状況等

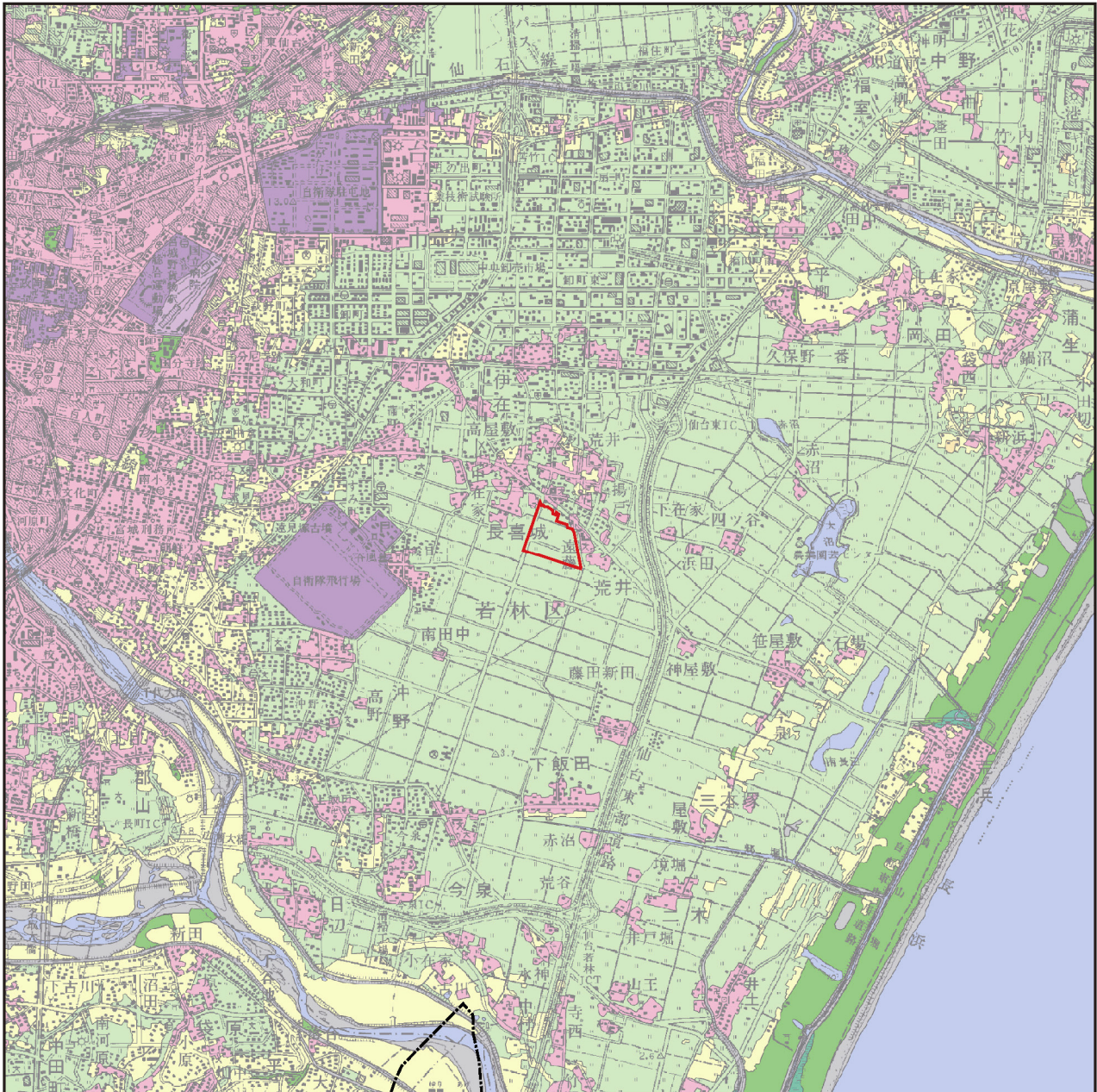
土壌汚染により影響を受ける施設は、事業予定地周辺の井戸（図6.2.3-2、p.6-135参照）などの施設や農地が考えられる。

## オ 土壌汚染防止上の留意点

事業予定地には、現時点では土壌汚染が問題化したような地歴のある箇所は見当たらない。今後、地形図、住宅地図、土地登記簿などの文献調査や周辺地域の聞き取り調査により土壌汚染が明らかになった場合には、土壌汚染対策法に沿った適切な対応に留意する。

搬入土は、良質土（砂質土又は岩ズリ）とし、土壌汚染調査で環境基準を満足している旨の検査証明書を提出することを施工業者に義務づけさせるとともに、事業者は搬入土の受入検査を実施し、土壌汚染のない土の搬入に留意する。





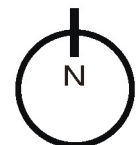
出典：土地分類基本調査（土地履歴調査）土地利用分類図（1964年）  
国土交通省土地・水資源局国土調査課

凡例



事業予定地

土地利用分類(第2期 1964年)	
Past-Land-use in the 1960s	
	田 Paddy field
	畑 Dry crop field or grassland
	果樹園 Orchard
	樹木畑 Tree crops field
	森林 Forest
	荒地・海浜等 Waste land or Beach
	湿地 Marshy land
	建物用地 Settlement and urban area
	交通施設用地 Transportation yard
	その他の用地 Others
	水部 Water surface



縮尺 1/60,000



図6.1.3-8 土地利用分類図